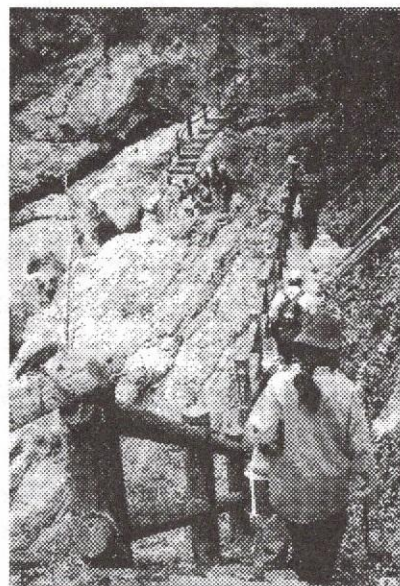


● 八釜の甌穴群 巡検報告 ●

森岡 美和

去る3月27日（日）、杉花粉飛び散る山深く、また天気予報では雨も心配される中、久万高原町（旧柳谷村）「八釜の甌穴」看板前に会員が次々と自家用車で乗り付けました。東は夜須から西は久礼まで、かなりの遠方にもかかわらず、小学生から古希をとくに過ぎられた方まで17名の参加でした。

さて、巡検の様子ですが、車道から遙か谷底まで延々と下って、メインのポットホールの様子をじっくりと観察しました。轟々と流れる水音に負けないで、それらがどのようにしてできたのか講師の吉倉先生のわかりやすい説明を聞きながら、皆であれこれと推察していきました。一帯の珪質岩（チャート）の硬さと、それをものともせず削っていく谷川の水の侵食力の強さに圧倒されながらも、チャートの岩体をよじ登り、ポットホールの侵食面の高さの変化（複数のポットホール群が何段かになっている）を体で感じながら、侵食する速さ（土地の隆起量）を計算したりしたあと、向こう岸の、甌穴群よりはかなり高い場所まで登って、河原で早めの昼食となりました。



一同、弁当を開きながら、にこやかに交流を深めておりましたが、中には早々に片づけて植物採集をしている（熱心極まりない）方も、…。

帰りはV字谷の造られてきた様子を、兩岸の巨大な転石から想像しながら、もと来た道を引き返しました。それぞれの興味のある課題をこの機会にと、吉倉先生や会長を捕まえては熱心に聞くあまり、なかなか帰ってこない人たちもいらっしゃいましたが、さて、全員が谷底から車道まで辿り着いた頃には、いよいよ雨が降り出して、小雨振りしきる中の閉会行事、解散となりました。

以上、簡単にご報告しておきます。また、今回2名の会員さんが、寄稿くださいましたので、以下に掲載いたします。より内容がおわかりいただけたと思います。なお、写真は伊野末喜さんの撮影されたものです。



黒川溪谷 (P・H) 行き帰りにて

会員 山本 孝信

私は地質学では素人も素人、クリノメーターさえ使い方を知らず八釜の甌穴群の観察の時の入谷前、駐車場で、川澤会長に「恥ずかしいことですが使い方を教えてください。」と、買ったばかりのクリノメーターを見せ、他に聞こえないように小さい声で教えてもらいましたが、「はい、はい。」とかつこよく説明を聞くだけでほとんど使い方が分からず、「こりゃいかん、簡単にはいかんぞ。」とその場は今後の自分の努力に期待して、こそこそ引き上げ、本日の目的地へと行きました。

私は、「岩石は女と一緒に、“色に迷ってはいけない。”」という吉倉先生の言葉がこびりついていますので、黒川のチャートについて「これもチャートですか。」「これもチャートですか。」「このチャートの中の黒いのは何ですか。」と、チャートの変化自在に質問仰ぐことしきり。

その努力あってやっと、自分の庭にあるチャートのチャートとしてあるべき範囲の岩を一応識別することが出来るようになりました。

今回、甌穴群の圧倒的な姿に見入ってしまいましたが、嬉しかったことは一緒に参加した孫が石に興味を示したことでした。又家内も「初めて吉倉先生に質問(?)した。」とはしゃいでいました。

次回巡検を楽しみにしています。ありがとうございました。

八釜の甌穴^{おうけつ}

高知大学理学部 小田 潤

3月27日、愛媛県久万高原町柳谷（旧：愛媛県上浮穴郡柳谷村）へ甌穴群を見に行きました。3月後半ではあったものの、四国カルストに近い事もあるか山の上には残雪があり、まだ肌寒い気温でした。

ここの甌穴群は、昭和27年に国の特別天然記念物に指定されており、柳谷村のHPによると「一帯には大小30数個の甌穴が見られるが、中央寄りの8個が特に大きいことから『八釜の甌穴』と呼ばれている。」との説明が掲載されています。

他の地域では花崗岩などの火成岩にできる甌穴が一般的ですが、この場所ではチャートの巨岩を長き年月を重ねて清流と礫が穿ち形成した、全国的に見て珍しい甌穴です。

もともと溪谷全体がチャートでできており、しかもチャート自体が泥を少し含んだ薄く青みがかった白色であるため、非常に美しいのが特徴です。両側には切り立ったチャートの壁が、川の中には巨大な転石があちらこちらに見られました。

さて、甌穴は自然が創り出した“美”ですが、ただ美しいだけではなく、地質学的に見ても面白いものであります。どうして川底の硬いチャートにこうした穴が空くのでしょうか？ 甌穴を見た人は、少なからずそう思うはずです。

硬く塊状の岩石で、その岩石内に存在する層理や節理の重なった交点、つまりもっとも弱い部分に川の水によって流されてきた大小様々な礫が何度もあてがわれることで、岩石が少しずつ削られていきます。そのうち浅いくぼみが形成され、その中に入った礫が水の流れて乱回転を起こしてさらに周りを削って、くぼみはさらに広く深く、そして丸くなっていきます。そうして最後には甌穴と呼ばれるほどに成長します。

（↑埼玉川の博物館HPを参考）

さらにここの甌穴群では、地盤の隆起による川の水位や流路が変化して違った高さで大小様々な甌穴を形成するに至っています。逆に言えば、その高さを調べることによって地盤の隆起量を見積もることもできます。

地質学的に見れば機械的な作用でもって形成された甌穴ですが、だからといって人間の手によって造り出すことは難しく、かつ途方もない時間が必要なものです。

それだけの年月をかけてできたものが目の前にあるからこそ、人間は美しいと感じ、また不思議だと思うのだと考えます。

※参考HP

柳谷村HP→ <http://www.netwave.or.jp/~k-ukena/yanadani/index.htm>

埼玉川の博物館HP→ http://www.river-museum.jp/newsletter/no_4/page5.html

ちなみにYAHOO検索では「甌穴」 6780 Hit

「ポットホール」3011 Hit しました